

## メッセージ 4

### 唯一の一のビジョンと真の一つ思い

聖書：エペソ4:2-6, 13. 使徒1:14. 2:46

- I. 神は一です。彼の性質は一です——申6:4. ガラテヤ3:20. エペソ4:3-6 :
- A. 召会、すなわち、キリストのからだを生み出すことにおいて、神は彼の一の性質にしたがって行動しました——マタイ16:18. エペソ2:14-16.
- B. 召会の開始は、神の性質にしたがった唯一の一の中にありました——1:22-23. 使徒1:14. 2:42, 46. 4:32.
- II. 聖書の中の極めて重要な原則は、神が彼のエコノミーにおいて、ご自身を人と一にすることを計画されるということです——創1:26. ヨハネ15:1, 4-5. Iコリント6:17 :
- A. 神のエコノミーの中心路線は、神と人、人と神とを、一つの実体にして、両者が一つの命と一つの性質によって一つの生活を持つということです——啓22:17.
- B. 最終的に、神と彼の選ばれ贖われた人との間の一は完成します。彼らは三一の神と完全に一になり、聖なる都である新エルサレムの構成要素となります——21:2, 10-11. 22:17.
- III. エペソ第4章4節から6節は、キリストのからだの唯一の一を啓示します :
- A. この唯一の一に対する主の願いの中の渴望は、彼が十字架に行く前の彼の特別な祈りとなりました——ヨハネ17:2, 6, 11後半, 14-23 :
1. この祈りが啓示していることは、三一の神が一であることと、この一がキリストのからだの一の模範であるということです——11, 21節.
  2. キリストのからだの一は、神聖な三一の拡大された一です——22-23節. 14:20. Iコリント12:12.
- B. 手順を経て究極的に完成された三一の神は、彼ご自身を彼の選ばれた人と、彼らの人性においてミングリングします。このミングリングが、唯一の一です。このようなミングリングであるので、からだそれ自身が一です——エペソ4:4. ローマ12:5.
- C. この唯一の一は、四つの要因から成っており、二つの手段によるものであり、一つの目標を持っています :
1. 三一の神の三者、すなわち、父、子、霊は、この一の三つの神聖な要因です。これら神聖な要因三つは、人性の要因一つとミングリングされて、からだにおいて究極的に完成します :

- a. この一は、一つからだ、一つ霊、一つ主、一つ神としての四つの要因から成っています——エペソ4:4-6。
  - b. これら四つの要因のミングリングが、その霊の一です——3節。
2. 一つ信仰と一つバプテスマは、この一を達成する二つの手段です——5節：
- a. 信仰は、からだがかしらであるキリストへと結合される手段です。
  - b. バプテスマは、からだが古いかしらであるアダムから分離される手段です。
3. その霊の一は、わたしたちの召しの一つ望みを目標としています。この目標は、からだは、からだミングリングされている手順を経た三一の神の神聖な栄光の中へともたらされることです——4節。コロサイ1:27。ピリピ3:21。
- D. エペソ第4章4節から6節によれば、キリストのからだ、召会は、「四・一」です。すなわち、父、子、霊、からだです：
- 1. 究極的に、召会、からだは、一群れの贖われ再生された人々であり、彼らは三一の神と結合しており、三一の神とミングリングされています——3:16-20。
  - 2. エペソ第4章4節から6節が啓示していることは、四つのパーソン、すなわち、一つからだ、一つ霊、一つ主、一つ神また父が、共にミングリングされて一つ実体となり、キリストの有機的なからだになるということです：
    - a. 父は起源であり、子は要素であり、霊は本質です。これら三者は、からだミングリングされています。
    - b. 父は子において具体化されており、子はその霊として実際化されており、三者はみなわたしたちの中にあります。ですから、わたしたちは四・一であり、神聖で人に属する構成です——ヨハネ14:10-11, 16-17, 20。エペソ3:16-20。
- E. すべての信者は、霊なるキリストと究極的に完成された霊というこの神聖で奥義的な領域の中において、三一の神とミングリングされるべきです。それは一を保つためです——ヨハネ17:21-23。エペソ4:3。
- F. キリストにあるすべての信者は、神聖な属性によって、また神聖な属性をもって強められ、豊かにされた、造り変えられた人性の美德をもって、この唯一の一、その霊の一を熱心に保たなければなりません——2-3節。
- G. その霊の一を保つこと、すなわち、実際上の一は、一つ思いです。それによってわたしたちは、実行上の一、すなわち、その信仰の一、また神

- の御子を知る全き知識の一に到達します——詩第133篇．エペソ4:3, 13。
- IV. 召会生活における真の一つ思いは、唯一の一、すなわち、からだの一、その霊の一を実行することです——エペソ4:3-6：
- A. 召会において真の一つ思いを実行することは、一を適用することです。一が実行される時、それは一つ思いとなります——使徒1:14。
- B. 一つ思いは、一を中心、核心、中核です——2:46。
- C. ヨハネによる福音書において、主は一を強調しました。しかし、使徒行伝では、一つ思いが強調されています——ヨハネ10:30, 17:11, 21-23. 使徒1:14, 2:46, 4:24, 15:25：
1. その百二十人は、からだの中で一となっていました。その一の中で、彼ら是一つ思いでひたすら祈り続けました——エペソ4:3-6, 使徒1:14。
  2. 使徒たちと信者たちが召会生活を実行したとき、彼ら是一つ思いで実行しました——2:46, 4:24, 5:12。
- D. 一つ思いは、わたしたちの内なる存在における調和を指しています——1:14：
1. 使徒第1章14節において、ギリシャ語の「ホモスマドン」(homothumadon)は、「一つ思い」と訳されています。この言葉が示していることは、人の全存在における内側の感覚の調和です。
  2. マタイ第18章19節において、ギリシャ語の「sumphoneo」(スィムフォネオ)が一つ思いを表徴するために用いられています。わたしたちが一つ思いであるとき、わたしたちは神に対して一つの旋律となります。
- E. わたしたちは一つ思いであるために、一つ霊の中において、一つ魂を持つことを学ばなければなりません——ピリピ1:27：
1. わたしたちは一つ思いを実行するために、同じ思いの中で、また同じ意見の中で調和されるべきです。これが、わたしたちの魂の中で一であることです——I コリント1:10。
  2. 一つ思いであるとは、わたしたちの全存在において一であることです。その結果、わたしたちは外側の語りかけにおいても一となります——ローマ15:5-6。
  3. わたしたちはみな、一つの心と一つの道を持つべきです。この一つの心と一つの道が、真の一つ思い、すなわち、唯一の一の適用です——エレミヤ32:39。